

夢きよく 道はるか



R5.10.4 文責 菅谷 信

全国学力・学習状況調査(4月18日実施)の結果より

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して、教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して、指導改善につなげるために実施しているものです。本校の生徒たちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語・算数/数学・英語(中のみ)に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」を取り上げていることをご理解ください。

	国語	数学	英語
山梨県(公立)平均正答率	70	50	43
全国(公立)平均正答率	69.8	51.0	45.6

1 調査結果について



■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

結果を見ると、本校の国語の平均正答率は、県・全国を上回っています。数学は、県・全国とも若干下回っており、英語は県を若干上回り、全国をやや下回っています。総合的にみれば全国・山梨県の水準にあると言えます。また、国語の正答率が向上しており、特に記述式の正答率が大きく向上していました。これには「授業では自分の考えをまとめる活動を行っていた」という質問に8割の生徒が肯定的に回答していたことから、本校で取り組んできた「振り返りの時間を大切にすること」の成果が表れてきているようです。しかしながら、数学についてはやや課題が残されたので、さらなる改善が必要と言えます。大切なことは単純に全体の正答率で一喜一憂することではなく、どの領域がよく、逆に落ち込んでいるかを分析し、今後の指導にいかすことです。3年生は進路決定までにまだ時間が残されていますので、特に正答率の低かった傾向の問題を今後の授業で再度行い、つまづきを解消していきます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

質問紙調査を全体的に評価すると、本校の生徒が前向きに生活していることがわかります。特に、「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「先生は良いところを認めてくれる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合が、県・全国平均と比べ高い傾向にありました。本校生徒は、自己肯定感が育っており、たいへん前向きに努力していると言えます。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級で話し合う活動で自分の考えを深め広げている」「学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と答えた割合が全国平均よりもかなり高い結果となりました。これまで学年・学級、各教科において取り組んできた話し合い活動の成果が大きく表れたものと考えられ、学習のベースとなる学級づくりがうまくいっているのではないかと思います。今後も活動を継続・強化し、何事にも主体的に活動できる生徒の育成を目指していきたいと思えます。

かねてより課題とされていた家庭学習の状況では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒の割合が、県・全国平均と同様な傾向にありました。「学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)1日当たりどれくらいの時間勉強をするか(学習塾や家庭教師の時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、3時間以上と答えた生徒が県・全国と比べてやや低い傾向にありました。学習習慣が身についた様子はみられますが、今後も継続した指導を続けていく必要があります。ただ、eライブラリの利用率は大幅にアップしており、ICTによる家庭学習は進んでいる状況です。

一方、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、県平均よりも低い傾向にありました。コロナ禍の4年間で地域との関わりが希薄になってしまったのは、本校地域に限ったことではありません。開かれた教育課程を目指す中で、地域との連携協力は大きなテーマです。まずは、生徒自身が自主的に地域活動に参加し、地域の方々との様々な活動を通して社会性(コミュニケーション能力、協調性、協働性)が育つよう支援を継続していきます。

2 各教科の分析結果



【国語】

全国と比べると、おおむね各分野において標準に達していると考えられます。書くことに対しては日頃から作文や感想文、振り返りシートの記入に力を入れてきた結果と考えることができます。しかし、意見と根拠など情報と情報との関係について理解するという部分においては全国を下回っています。その部分を今後正しい回答を選択できるように強化していく必要があります。また、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える部分が下回っているため、こちらも強化していく必要があります。(裏面へつづく)

今後の授業改善については、根拠をしっかりと書けるよう「なぜ」の部分にこだわった授業を進めていきます。例えば多くの作品を読み、筆者がどのように考える根拠を探したり、読み深める時間を増やしたりするなどです。また、情報を読み取る力もつけるため、教科書にある資料の読み取りなどを使って、正しく情報を読み取れる力をつけ、読み取った情報が何を意味しているのかなど、情報から読み取れる内容を考えさせる授業展開を考えていきます。そして、文章の構成や展開、表現の効果についても根拠を明確にする部分については、授業の中で意図的に強調しながら指導を行っていきたいと思います。まず、段落ごとの関係を理解させ、表現技法などをもう一度確認し、自分の考えをきちんと伝えられるようペア学習などを用いて、理由を相手の的確に伝える学習などを深めていきたいと思います。



【数 学】

今回は、全国・県どちらの平均よりも下回る結果となりました。特に領域別で見ると「データの活用」が大きく下回りました。一方、「図形」の領域では県平均を少し上回りました。各領域の状況は次の通りです。

「数と式」では、基本的な計算の学習が身につけていない生徒がおり、分数や少数、正負の数の計算が不十分のため1次方程式が解けず、その後の連立方程式も解けない状況があります。振り返りやドリル的な学習を行う必要があります。どこの部分を学習すべきかなど、早い段階で「できない」を克服していく必要があります。

「関数」では、反比例の問題は全国より上回っていましたが、1次関数のグラフから必要な情報を適切に読み取ることが難しい生徒が多くいました。グラフから事象に即して解釈できるようにすることが大切です。

「図形」は県の平均を上回りましたが、証明の部分など正答率が低い問題もありました。二等辺三角形の性質や平行線になるための条件を理解していても、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなる理由を読み取ることが難しいようでした。証明問題など自分自身の力で解いていく経験を重ねることも必要だと考えます。

「データの活用」では、四分位範囲の問題の正解率が低い結果が出ています。2年生の最後の単元として扱われていましたが、四分位範囲の用語や意味の理解が不十分な生徒が多くみられました。

今回の結果の中で、解答率はほぼ全国平均と同じであるが、正答率が低いと、答える中で間違えてしまっている生徒が多いことが考えられます。考える途中で正しい知識や考え方が身につけていなかったり、途中で止まってしまったりしているようです。解答しようとする姿勢があることは良い傾向ですので、正答できる力をつけることが必要です。また、点数分布からは、学力の二極化が読み取れるので、そこを埋めていくことも考えていく必要があります。

主な改善点としては、基礎的・基本的な計算技能の習熟のための反復練習、図形の特徴と対応づけた作図、日常の事象や身の回りにあるものを題材とした学習、問題を解決する方法を式や文章を用いて数学的に説明する場面をできるだけ取り入れるなどについて取り組んでいきたいと思います。



【英 語】

県と全国との平均正答率に大きな差は見られませんでした。領域に着目すると、「書くこと」、次いで「読むこと」が全国平均に比べ下回っていることがわかりました。基本的な文法事項が身につけていなかったり、複数の情報を処理する問題に慣れていなかったりするようです。英文の全体像をつかむ力、詳細情報を得る力の両方が全国と比べ低く、読む力が総合的に低いと言えそうです。「聞くこと」に関しては、全国との差はほとんどありませんでした。去年から継続している日常の授業での口頭導入や授業者と生徒との会話練習など、英語を聞いて理解する時間を多く設けたことが、今回の結果につながった一要因といえます。「書くこと」に関しては、今回の問題の傾向から、状況に応じた適切な表現を選択して使用する力がまだ弱いということがわかりました。そのため、例えば新出文法を用いた基本文の代入ドリルなどのPattern Practiceを、生徒の日常生活や興味関心と関連した状況設定の中で行う機会を増やして基礎的表現の定着を図り、類似した目的・場面・状況下で、いくつかの単語を入れ替えることで広く応用できる力をつけさせたいと思います。「話すこと」では、相手に質問したり、答えたりするやりとりで課題がありました。会話の内容を掘り下げる、質問内容の幅を広げるような活動を取り入れていきたいと思います。

今後の授業改善については、読解力をつけるため、概要から詳細理解をしていく過程で、何回も英文を読み直す機会を増やすことが必要であると考えます。また、本文理解を確かめる発問や英文を何回も読まないで答えが思いつかない、行間を読むための発問、文章に出てくる登場人物のバックグラウンドやその時の心情を考えるための発問など、発問の工夫を行う必要があります。そして、個人→ペア→全体の流れの中で、文章をかみしめ味わう時間を多く取っていきたいと思います。

3 これからの学校としての取組とご家庭へのお願い

Well done!

学力向上の基本は授業にあります。落ち着いた状態でしっかりと授業を受けている今の状態を続けていくことが何より大切です。甲府市教育委員会が示す授業づくりの7つの視点「こうふのだから」のうち、中でも本校が特に意識して取り組んでいることは「子どもの視点に立った見通しと振り返り」、「学級集団づくりも大切に」です。それぞれの生徒たち自身が何を学習するのかという見通しを持ち、学習した内容の振り返りを行うことは、学力の定着につながります。また、1人1台端末を有効に活用していくことや、学びの場となる学級が生徒たちにとって意欲的に活動できる場となることもそれを助ける大きな要因となります。教材を生徒たちにどう提示するかはもちろん、仲間と共に学習に向かうことが楽しく感じることが学級経営を、こころがけていきたいと思います。まずは、小グループの活動から「主体的・対話的で深い学び」を目指していきます。さらに、家庭学習においては、これまで取り組んできた「自学ノート」を継続していきます。

多くの生徒たちは、学校生活や家庭生活が安定している様子が見られます。しかし、自分に自信が持てないお子さんも少なくありません。ご家庭での団らんや励まし、ほめ言葉が、心の支えになるかと思っています。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践を引き続きお願いしたいと思います。